

## 世田谷区立松丘小学校（2年目）

【校長】 白井 潤一  
【児童数】 953名  
【学級数】 28学級



次の取組へ

### 【課題・改善】

- ・様々な遊びの企画や週間の取組はよかったが、教員が主体となって進めていたため、児童の“日常化”につながらなかった。
- ・「一日一度は外遊びをする」児童の割合は高まったが、室内遊びの充実もあり89.6%にとどまった。
- ⇒ 今後は児童が自分たちで継続したい取組、新たにやってみたい取組を考え、主体的に遊びを運営していけるように促す必要がある。
- ⇒ アンケートや調査の結果を実態把握のみに活用するのではなく、保護者や児童自身に提示し、振り返る機会をもたせることが重要である。

### 目標

- ・ 体育の学習が好きな児童の割合を高める。(95%以上)
- ・ 一日一度は外遊びをする。(95%)
- ・ 体を動かす遊びが好きな児童の割合を高める。(90%以上)

### 【成果】

- **遊びを通した多様な運動機会の形成**
  - ・ 体力テストの平均点が向上した。特に、20mシャトルランでは全学年男女共に昨年度より数値が上がった。
  - ・ 遊びの用具を設置したり、教師との共遊びを行ったりすることで、体を動かす遊びが好きな児童の割合が高まった。(92.6%)
- **健康的な生活習慣の構築**
  - ・ 各委員会が健康教育に視点をもって全校でできる取組を考えたり、給食動画を毎日見たりすることで、「もう少し早く寝よう」「残さずに食べよう」と、児童が自分の体に関心をもつことができるようになってきた。
- **外部人材の活用**
  - ・ 体育学習に関する教師の知識や意識の改革につながった。児童がより楽しく体を動かせるような指導を工夫しようとする教師が増えた。

### 【実態・課題】

- ・ 体育の学習が「好き・やや好き」の割合が92.5%いる。
- ⇒ 学年が上がるにつれて割合が低下する。
- ・ 体を動かす遊びが好きな児童の割合も、学年が上がるにつれて減少している。(80%)
- ⇒ 休み時間に、すすんで外で遊ぶ児童が減少している。
- ・ 睡眠時間が減少している。
- ⇒ 体を動かすことを面倒だと感じる児童は、学年が上がるにつれて増加する。

### 【取組】

- **遊びを通した多様な運動機会の形成**
  - ・ 一日一度は朝遊びをはじめとした外遊びを行うことを学校全体で推奨している。それに加えて、児童が体を動かして遊んでみようとするきっかけを作る。
- **健康的な生活習慣の構築**
  - ・ 自分の体に関心を持ち、よりよい生活を送ろうとする意識を高めるために、「運動・睡眠・食」に関する動画を視聴したり、各月の健康目標をもとに振り返ったりする。
- **外部人材の活用**
  - ・ 日本体育大学と連携し、体育授業と遊びに対するご指導をいただく。
  - ・ 様々な調査を通して、校外の方から客観的に児童の姿を「見える化」する。

## 【取組（詳細）】

### ○ 遊びを通した多様な運動機会の形成

#### ☆エンジョイスports☆

##### ●校庭・体育館遊びチーム

- ・ 外遊びを充実させ、児童が「校庭へ出て遊びたい=体を動かそう」とするしかけ作りを行った。
- ・ 遊ぶことができる時間の増加
- ・ 教師が児童と共に遊ぶ『共遊び』
- ・ ケンパゾーンの設置、竹馬や一輪車の整備
- ・ クラスボールを増やし、ボール遊びを充実
- ・ レッツエンジョイスportsタイムの設定
- ・ 固定遊具カードの作成



##### ●室内遊びチーム

- ・ 外遊びができない場合や、室内遊びを好む児童にとっても、体を動かす楽しさを味わうことができるように、きっかけ作りを行った。遊びを通して、集中力や運動能力（指先の器用さ・リズム感）を高めることもできた。
- ・ 室内遊びグッズ（お手玉、こま、けん玉、リズム遊び）の整備
- ・ 室内遊びチャンピオンシップ（異学年交流）の開催



### ○ 健康的な生活習慣の構築

#### ☆エンジョイライフ☆

##### ●アンケートチーム

- ・ 全校児童への運動・生活習慣に関するアンケート、外部人材を活用した調査から、児童の姿を客観的に数値として“見える化”できるようにした。
- ・ Go/No-Go 測定（認知機能測定）
- ・ 身体活動量測定（歩数計調査）



##### ●特活連携チーム

- ・ アンケート結果を基に、児童が自主的に活動や取組を考えていけるように、各委員会にも健康教育を意識した視点を投げかけた。
- ・ 運動委員会の「みんなで外遊びをしよう企画」の実施
- ・ 自然委員会による「日光を浴びよう週間」の実施

##### ●保健・食育チーム

- ・ 毎月の健康目標を設定し、児童が自分自身の生活を見直し、自分に合った取組を考え、実践できるように啓発した。
- ・ 養護教諭による保健授業の実施
- ・ 栄養士による毎日の食育動画の配信
- ・ ベジチェック（野菜充足度測定）

